第４５回日本臨床心理学会大会（仙台）へのご案内

―どなたでもご自由にご参加下さい―

大会委員長　氏家　靖浩（東北文化学園大学）

今年の大会は宮城県仙台市で開催します。前に仙台で開催したのは 1995 年のことで、それから数えて 14 年ぶりです。個人的には北陸・福井県に暮らしていた 2001 年に大会を主催したので、自分としては８年ぶり、という感じです。

この学会の大会は、知人の言葉を借りれば、初めて参加した方の場合でも「以前からの知り合いと、膝つき合わせて議論し、自分の知っていたことを深められ、自分の知らなかったことに気づきが得られる、合宿のようなもの」だそうです。最近は、そういった人付き合いは苦手だ、と感じる方もいらっしゃるようですが、熱く議論するもよし、いや、少し距離をおいて、そうした議論や講演に耳を傾けるもよし、興味・関心に合わせたスタイルで参加して頂くのがよいでしょう。

大会のメニューとして、長期間に亘る議論になっていますが大きな課題である心理職の国家資格に関する話題をはじめとして、それ以外のテーマでも、まったく初めて参加される方にはわかりやすく、これまでにもおなじみの方には、より思考が深まるような工夫を心がけていきたいと考えております。特別公開講演は、文学、作家に関する今までにない視点を紹介するもので、講演によって、新たな文学観、人間観を育む機会にして頂きたいと思っているところです。

ところで、会場となる東北文化学園大学は仙台駅から電車が便利なのですが、かなり急な坂を登り、しかも仙台市の北東部をぐるっと遠まわりするので、遠方からおいでで仙台駅の周辺に宿泊先を確保された方にとっては、朝は進行方向右手の遠くに、深まりゆく秋の気配を漂わせた東北の山並みを眺めることができ、夜は大会の熱気をクールダウンさせてくれるかのように、進行方向右手に幻想的な仙台の夜景を眺めることができます。この往復でさえがみちのくの小さな旅となります。さらに東北の電車というものは、自動ドアとはいえ自動でドアが開くのではない、ある「秘密」があります。この「秘密」を知らないと、電車から降りられないことになるかもしれません。この「秘密」について知りたくなった方も、ぜひ大会に参加して確かめて頂きたいと思っています。

秋から冬へとバトンを渡しているような 11 月の東北の空の下で、臨床心理学とその周辺の課題についてじっくり考え、大会の前後は仙台市内の青葉城址や広瀬川、さらに少し足を延ばせば昨年の地震から回復しようとしている栗駒山も見られますので、そうした場所から英気を養い、有意義な時間にして下さいますよう、心からお待ち申し上げております。

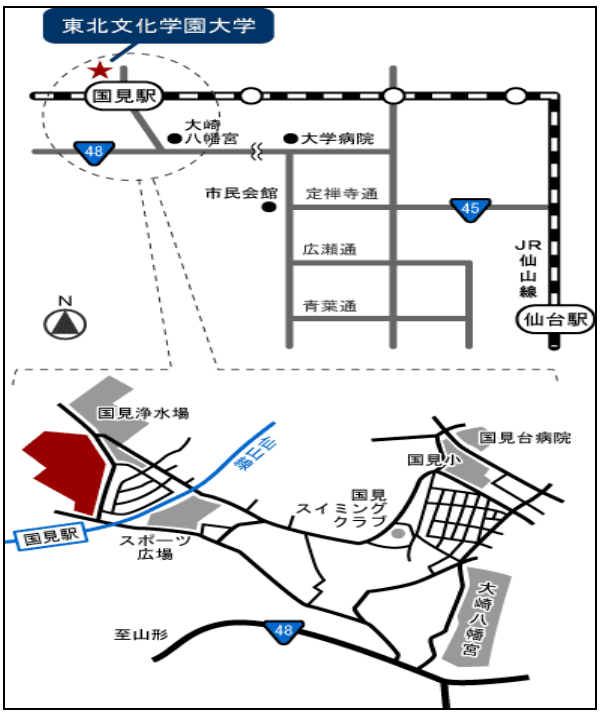
日時：２００９年１１月６日（金）～８日（日）
場所：東北文化学園大学（〒981-8551 宮城県仙台市青葉区国見６－４５－１）

	午　　前	午　　後	夜	
11/6 （金）			6:00 **受付** 6:30～8:30 **プレセッション** 心理職の資格のあり方と現状	
11/7 （土）	8:30　**受付** 9:00～10:00　**個別発表** 10:00～11:30 **定期総会・運営委員改選** 11:30～12:30　**総会討論** 国家資格化に関する 学会見解に向けて	1:30～4:15 **スモールグループディスカッション** ・精神保健福祉について **ラウンドテーブルディスカッション** ・ピアサポートの課題、方略と展望 **ワークショップ** ・ヒアリング・ヴォイシズ（HV） ―きこえる声とともに成長する道―	4:30～5:30 **『地域臨床心理学』出版記念会**	5:30～7:30 **情報交換会**
11/8 （日）	9:00　**受付** 9:30～12:30　**分科会** ・医療観察法の現状と課題 ・発達障害にビデオエスノグラフィーは挑戦する	1:00　**受付** 1:30～4:30　**特別公開講演** 二木　文明（東北文化学園大学） 作家の病跡にみるマゾヒズム、マゾヒズム的心性 ―谷崎潤一郎と有島武郎―		

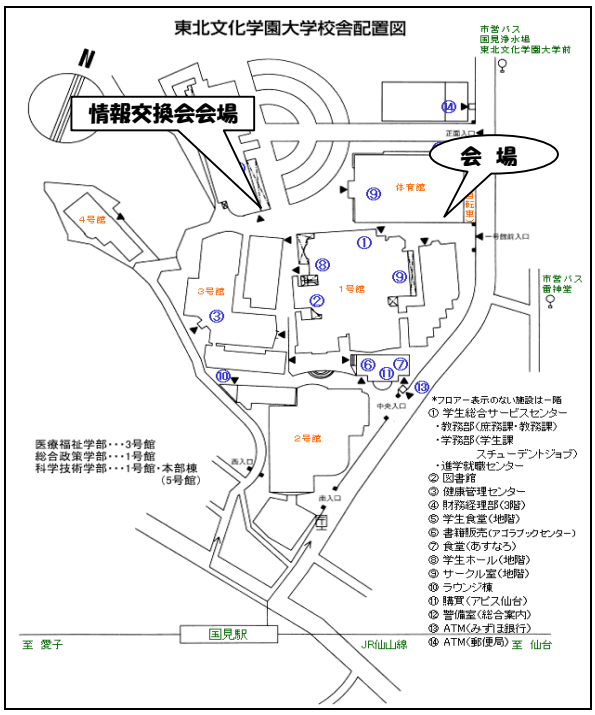
【プレセッション】５００円（会員は無料）
【大会参加費】会員：3,500 円　非会員：4,000 円　学生、ユーザー・家族：2,000 円
【特別公開講演のみ】５００円（資料代）　**【情報交換会】**5,000 円
【日本臨床心理学会事務局】〒110-0003　台東区根岸１－１－２４　鶯谷日伸ハイツ 201
TEL＆FAX　03-3847-9164　（電話は土曜日 13:00～18:00 のみ。他、留守電対応）
学会ＨＰ：http://www.geocities.jp/nichirinshin/　　e-mail:nichirinshin@yahoo.co.jp

【大会会場案内図】

＜大学までの地図＞



＜大学構内地図＞



○各地から仙台まで

東京駅より　JR 東日本東北新幹線下りにて仙台駅まで(約２時間、片道約１万円)

大阪・名古屋・札幌・金沢方面より　飛行機を利用　仙台空港駅より仙台駅まで仙台空港アクセス鉄道を利用(約 25 分、630 円)

○JR 仙台駅より電車利用の場合

JR 仙山線(せんざんせん)の山形方面(山形行き、愛子[あやし]行き等)の電車で 15 分の「国見駅」下車徒歩 3 分。料金は 190 円です。快速列車も止まります。

○仙台駅前より仙台市営バス利用の場合

JR 仙台駅前の仙台駅西口バスプール 15 番から「南吉成・国見ヶ丘一丁目」「南吉成・中山台・実沢(営)」行きに乗車、「国見浄水場・東北文化学園大学前」で下車。所要時間は 30 分、料金は 290 円です。

○情報交換会会場　東北文化学園大学職員食堂(学内:会場より徒歩３分)

【食事について】

大会の会期中、学内のコンビニエンスストアが利用できます。7 日土曜の昼食時間帯(11 時から 13 時 30 分まで)は、学内の学生食堂が利用できます。そのほか、学内とその周辺にはレストラン等はありませんので、ご用意下さい。

【宿泊について】

学会事務局では仙台までの移動や宿泊先のあっせんはしておりませんので、ご了承下さい。なお、どうしても移動の際の心配や、宿泊・観光に関する情報を知りたいという場合は、近畿日本ツーリスト仙台イベント・コンベンション支店(担当:蛯名・吉田　電話 022-221-6711)まで各自でお問い合わせ下さい。大会ホームページからも、確認できます。

【新型インフルエンザについて】

大きな感染が確認された場合で、宮城県・仙台市・大学当局より中止の命令があれば、開催できない可能性もあります。その際、既に仙台に移動を開始していたり、キャンセル料が発生しても学会としては対応できないことをご了承下さい。

１１月６日（金）6:30p.m.～8:30p.m.**プレセッション**　【地階・階段教室３　1055】

心理職の資格のあり方と現状

発　題　者：佐藤　俊彦（東北文化学園大学）
話題提供者：藤本　　豊（日本臨床心理学会運営委員）
　　宮脇　　稔（日本臨床心理学会運営委員）
司　　会：氏家　靖浩（日本臨床心理学会運営委員）

なかなか方向性が見えてこない心理職の国家資格ですが、基礎的な分野と応用・臨床的なアプローチとの交流に関心を持たれ、また、諸外国の心理学の資格制度に関心を持っている佐藤氏からの話題提供を受けて、資格のあり方について議論してみたいと考えています。

＜大会プログラム＞

１１月７日（土）9:00a.m.～10:00p.m. **個別発表**　【３階・ゼミナール室 1384、1385】

A．中学校卒業後を展望した教育支援センター（適応指導教室）の実践課題　Ⅱ
　　―学校との連携に焦点をあてた支援の点検―・・・・・・・・・・・・・・・菅野　聖子
　相談という営みを考える　―場・器（うつわ）の視点から―・・・・・・・・・・・・・・・韮沢　　明
B．禅仏教における自我形成援助方略　Ⅳ　―春・夏・秋・冬の課題―・・・・・・・・・・・・吉田　昭久

１１月７日（土）10:00a.m.～11:30a.m. **定期総会・運営委員改選**　【地階・階段教室３　1055】

１１月７日（土）11:30a.m.～12:30p.m. **総会報告**　【地階・階段教室３　1055】

国家資格化に関する学会見解にむけて

提案説明者：亀口　公一（日本臨床心理学会　心理師国家資格検討小委員会委員長）

本学会が、心理職の国家資格化を消極的に容認してから 20 年近くなるが、これまで他学会や他団体の資格化の動きに対して意見表明しているだけで、未だ本学会として国家資格のあり方見解を明らかにしていない。

資格化にあくまで反対の会員もおられると思うが、すでに「臨床心理士」など多くの民間の有資格者が心的侵襲性のある心理的支援を多領域で行っている。現時点では、される側のクライエントが心理療法等で被害を被った場合、個人か認定団体を訴えるしか対抗手段がない。専門家のためではなくクライエントのために責任ある心理支援を公的担保するのが国家資格と考える。当日、運営委員会見解を説明し、学会見解として承認いただき他学会など広く周知してきたい。

１１月７日（土）1:30a.m.～4:15p.m. **スモールグループディスカッション**　【地階・階段教室３　1055】

精神保健福祉について

コーディネーター：森谷　就慶（東北文化学園大学）

このスモールグループディスカッションは、学会の通常の発表スタイルではなく、発表者と聴衆という区分なしに交流できるようにしたいという思いから設けられました。大きなテーマを精神保健福祉としましたが、これよりも細かなテーマを用意していません。精神保健福祉に関して話してみたいことがあるという方にこの場を開放しますので、コーディネーターの示すルールに従って、あとは自由に意見交換をして頂きたいと思っています。

精神保健福祉のユーザーと専門職が多くなるかもしれませんが、限定はしません。むしろ医療や福祉全般、教育や保育等に関わっている方々にも思いを持ち寄ってもらいたいと考えています。

１１月７日（土）1:30p.m.～4:15p.m. **ラウンドテーブルディスカッション**　【３階・ゼミナール室 1384】

ピアサポートの課題、方略と展望

企　画　者：髙島　眞澄（NPO 茨城県精神障害地域ケアー研究会）

私たちは、精神障害という共通の体験に基づいた仲間同士の支援活動を、どう支援するかが、精神障害者の重要な地域支援になると考えてきました。しかし、ピアサポートは、治療や福祉支援で障害者自らが体験した「する側－される側」の分断した関係性は、ピアサポートの本質的機能を疎外する危険性を孕んでいます。「精神障害者退院促進支援事業」で実施したピアサポート活動の結果を踏まえ、ピアサポートの課題、方略と展望について、議論をしたいと考えます。

１１月７日（土）1:30a.m.～4:15p.m. **ワークショップ**　【３階・ゼミナール室　1385】

ヒアリング・ヴォイシズ（HV）―きこえる声とともに成長する道―

解説と進行：佐藤和喜雄（NPO 福祉会菩提樹）　松王　強（河田病院）

誰もいないのに声や音がきこえる現象を精神医学では幻聴として、薬物療法で「きこえ」を消そうとします。しかしそれは容易に消えず、薬の副作用で生き生きとした生活を送れない場合も多いです。ヒアリング・ヴォイシズでは、声のことを体験として語ってもらい、その人が声に対処するのを助けます。悪い声に対処するうちに、良い声にも気づき、声の意味を探り、声とともに自分らしく生きる道を求めることができるようになります。ともに学びましょう。

１１月７日（土）4:30p.m.～5:30p.m. **『地域臨床心理学』出版記念会**　【地階・階段教室３　1055】

11 月に刊行される本学会編『地域臨床心理学』（中央法規出版）税込 2,730 円の出版を記念し、執筆者から、地域での臨床心理学的支援の現状を語って頂きます。『地域臨床心理学』は、日本臨床心理学会編としては６冊目の出版物です。

既刊の『心理テスト虚構と現実』（1979）『戦後特殊教育ーその構造と論理の批判』（1980）『心理治療を問う』（1985）『早期発見・治療はなぜ問題か』（1987 年）『裁判と心理学』（1990 年）の５冊では、臨床現場から臨床心理学のあり方を問い直す作業をまとめたものです。

今回の『地域臨床心理学』は、臨床心理学のあり方を問い直しながら、臨床現場での実践をまとめました。いま、臨床の現場は病院だけではなく、地域の様々な施設でも心理職が勤務しています。本書では、心理学の視点を日常業務にどのように活かすかを含め、病院、クリニック、デイケアといった従来からの心理の仕事以外に、生活訓練施設、地域生活支援センター、作業所、保健所での臨床現場の実際を紹介しています。これ以上の詳しい話は当日に！

１１月８日（日）9:30a.m.～12:30p.m. **分科会Ⅰ**　【地階・階段教室３　1055】

医療観察法の現状と課題

発　題　者：指定通院医療機関：稲垣亮祐（光愛病院　精神科医）
大賀達雄（鴻巣病院　心理）
保護観察所から：塙　和徳（水戸保護観察所　社会復帰調整官）
司　　会：藤本　　豊（東京都立中部総合精神保健福祉センター）

「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」（以下医観法）が 2005 年 7 月に施行され、2010 年には５年後の改正の予定です。

医観法成立時には、一般医療に遅れをとっている精神科医療の引き上げが謳われていましたが、未だに精神科医療の改善は遅々として進んでいないのが現状です。そればかりではなく、医観法の指定入院医療機関が予定通り設置されないために、病床が不足する事態となっています。2008 年８月に厚労省は、精神科病院であっても一定の条件を満たせば、指定医療入院機関の待機待ちの入院を認める旨の通知を出しました。

一方、現在医観法でどのような「処遇」が行われているかについては、あまり知る機会がありません。そこで、本分科会では、地域でどのよう「処遇」が行われているかを、指定通院医療機関の医師、心理職、また、地域の社会復帰調整官の方にそれぞれの場からの報告を聞き、今後の課題について考えたいと思っています。

１１月８日（日）9:30a.m.～12:30p.m. **分科会Ⅱ**　【２階・講義室　1257】

発達障害にビデオエスノグラフィーは挑戦する

発　題　者：樫田　美雄（徳島大学）
発　題　者：山本　智子（奈良女子大学）
司会・発題者：氏家　靖浩（東北文化学園大学）

現代は発達障害の理解において、医学や心理テストの一部の知見に依存し過ぎている。ここでは、予見を捨て去り、発達障害があると言われる人とその周囲の人々との相互行為に着目し、そこに生まれる人間関係は何であるのかについて、以下の視点から読み解き議論する時間にしたいと考えている。

（１）「有効になるメッセージと無効になるメッセージ　–発達障害が疑われる小学生の教室内コミュニケーション実践の相互行為分析–」
（２）「ＳＣＴテスト場面における発達障害といわれる子ども・テスター間コミュニケーションのビデオ分析　–症状としてではなく個人史のコミュニケーション的現れとして相互行為を分析する試み–」

１１月８日（日）1:30p.m.～4:30p.m. **特別公開講演**　【地階・大講義室　1054】

作家の病跡にみるマゾヒズム、マゾヒズム的心性 ―谷崎潤一郎と有島武郎―

講　　師：二木　文明（東北文化学園大学）
司　　会：氏家　靖浩（東北文化学園大学）

＜講演者紹介＞

お話をして下さる二木文明(ふたき・ふみあき)さんをご紹介します。二木さんは哲学を専門とし一度大学を卒業されてから、医学を勉強するために再び大学に入りました。医学部卒業後は精神科の臨床現場一筋に仕事をされ、２年ほど前から、東北文化学園大学に勤務し、医師の後進育成ではなく、主として福祉や理学・作業療法を学ぶ学生たちに、精神医学や精神保健の講義をされています。

今回、二木さんのお話をみんなで聞く機会を持つべきだと、次のような理由から考えました。特に臨床心理学や対人援助職の専門家を例にしますと、近年、事例研究や実践研究は大変盛んだと思われますが、数が増えたという割には説得力に欠けるもののみが増えているように感じられます。思いつきで書いているのではないかと考えたくなるものも、多くなっているように感じられます。二木さんは、ひとつの論文を仕上げるだけで、かなり多くの先行研究を読み込まれ、思索を重ねています。こうした厳しさを、講演から学び取りたいと考えました。また、心の病を抱えて生活されている方や、精神的な苦労を背負い、なかなか前向きになれないと感じながら生活している方にも、ぜひご参加をお勧めします。これまでに世に名を残した方々も、多かれ少なかれ、心の病を背負い、心の病の周辺に立ち尽くしていたということを、二木さんの紹介する研究から、我々は知ることができます。

二木さんは、心の専門家に厳しさを伝えようとしています。それでいて優しく穏やかな「日本のお父さん」のような雰囲気から語られる言葉には、私たちにそれ以上の「気づき」をもたらすものと考え、この講演を企画しました。

(文責:氏家靖浩)

＜講演内容＞

病跡（Pathographie）とは、傑出人や天才の精神の異常性とその創造との関係、また生活史的展開を明らかにする生活記録・伝記の一形式、あるいはその系統的研究をさし、精神医学―とりわけ精神病理学の応用領域のひとつである。今回、ともに作家の谷崎潤一郎と有島武郎を取り上げ、彼らの作品や日記などを分析することによって、前者がマゾヒズムの、後者が「マゾヒズム的性格」の持ち主であったことを示してみたい。そして、谷崎と有島にあってはそれらマゾヒズムがどのような必然性のもとに生まれてきたのか、さらにそれらマゾヒズムが二人の人生に及ぼした影響、また、それらマゾヒズムと創造行為との関連性などについて考察を加えてみる。